

第13回猪名川部会(2002.8.20開催)結果概要

庶務作成

開催日時：2002年8月20日(火) 10:00~13:30

場 所：axビル アクスネット

参加者数：委員9名、河川管理者11名、一般傍聴者51名

1. 決定事項

今後の部会のスケジュールについて、以下の通り決定した。

- ・ 9月21日(土)に現地対話集会を行う。招聘者の選定については、部会長及び部会長代理に一任する。
- ・ 第14回猪名川部会は10月1日(火)16:00より開催する。審議時間は4時間を目安とする。
- ・ 第15回猪名川部会は、10月17日(木)10:00~13:00に開催する。

2. 審議の概要

第13回委員会の報告、委員会WGに関する情報共有

資料1-1「委員会および他部会の状況(中間とりまとめ以降)」、資料1-2「今後の流域委員会の進め方について」をもとに、委員会および他部会、各WGの活動状況、スケジュール等について報告が行われた。また、部会長より8/2(金)開催された猪名川部会現地フィールドワークの結果についても報告が行われた。

なお、委員より、全体スケジュールに対して、「期間が短すぎるのでは」との指摘があり、部会長代理より「運営会議に報告したい」との発言があった。

今後の猪名川部会の進め方について

資料3-1「今後の猪名川部会の進め方について」をもとに、今後のスケジュールについて議論が行われ、上記「1. 決定事項」の通り決定された。また、委員より「ダムの問題については早めに議論すべき」との発言があった。

猪名川の治水に関する河川管理者からの情報提供と意見交換

河川管理者より前回部会での要請を受けた情報提供が行われた。

- ・ 猪名川流域の既往4洪水の現況河道における被害状況シミュレーション、およびS28年9月洪水規模の1.2倍、1.5倍、1.8倍、2.0倍のシミュレーション結果(資料4-1「猪名川の治水の現状」)

これに対して、部会長代理より、「破堤回避のための堤防強化を行った時のシミュレーションの計算条件等については、整理したうえで再度、河川管理者にお伝えしたい」との発言があった。

河川管理者からの情報提供

委員からの質問に対する回答および情報提供として、以下の説明が行われた。

- ・猪名川流域の水防団の現状について（資料4-2「猪名川直轄区間の水防団」）
- ・平成14年の猪名川流域の濁水状況（資料6）

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者1名から、最終提言に関する質問及び「余野川ダムの問題については早く議論していただきたい」との発言があった。

3. 主な報告と意見交換

今後の猪名川部会の進め方について

庶務より、資料3-1「今後の猪名川部会の進め方について」を用いて、最終提言の素案の検討スケジュールについて説明が行われた。

（主な意見）

- ・神崎川の水質浄化の活動をしている人から「神崎川については何の意見も出ていない」という意見を聞いた。こういった一般意見を検討する機会は、現状ではほとんどない。意見をうかがった限り、何らかの形で反映すべきだと思う。（委員）
- ・委員会のWGの検討には、水質の問題を入れてほしい。（委員）
- ・ダムの問題については「中間とりまとめが終わってから議論する」ということになっていた。現状のスケジュールでは、その時間がとれない。ダムの問題は当部会においても早めに議論したい。部会の回数を増やすことは難しいので、会議を1時間延長する、あるいは会議のスケジュールの見直しも検討すべきだろう。（委員）
- ・ダムについて議論する時には、水需要の問題を考えねばならない。猪名川については大阪府の水道局の説明だけでは不十分。阪神水道企業団から説明していただくよう要請する。（委員）

猪名川の治水に関する河川管理者からの情報提供と意見交換

資料4-1「猪名川の治水の現状」、その後資料4-2「猪名川直轄区間の水防団」、資料6「平成14年の猪名川流域の濁水状況」を用いて、説明がなされた。

*洪水被害シミュレーション

平成13年度現況河道における昭和28年9月、35年8月、42年7月、58年9月降雨の被害状況のシミュレーション（昭和28年9月降雨については、1.0倍、1.2倍、1.5倍、1.8倍、2.0倍の被害状況シミュレーション）の説明が行われた。

- ・シミュレーションの結果、浸水常襲地区の銀橋上流多田地区における浸水や無堤地区（川西池田地区）からの拡散型氾濫で尼崎市などの下流が浸水する危険がある。

- ・ 猪名川流域には水防団は存在せず、消防団が任務にあたる。尼崎市の場合は市長が本部長、市の職員が水防団、さらに住民が消防団（機動隊）を結成し、水防活動を行っている。
- ・ 一庫ダムの貯水位等の現況と取水制限の状況が説明された。

（意見交換）

- ・ 既往4洪水のうち、S42.7の被害がとび抜けて大きいのはなぜか。（委員）
集中豪雨がその理由と考えられるが、きちんと解析されているわけではない。（河川管理者）
S42.7の洪水被害の原因が究明されていないとすれば問題だ。4洪水とも銀橋狭窄部の上流で被害が発生しているが、その対策を考える必要がある。例えば住宅や商業施設の下駄履きなどの対策によって浸水被害を防がなければ、銀橋狭窄部の開削が必要となってくるだろう。しかし、銀橋狭窄部を開削すれば、下流域に危険が高まる。さまざまなことを検討するうえで、S42.7の洪水被害の原因を究明して頂きたい。（委員）
- ・ シミュレーションによれば、S35.8の被害がもっとも甚大だと思われるため、これを基本にした治水対策を考えていく必要がある。（委員）
流域委員会の理念は「いかなる降雨に対しても、破堤による壊滅的被害の回避を優先する」となっている。対象とする雨量を決めて計画流量を流すという従来の治水対策からの転換を提言しているのではなかったか。（河川管理者）
確かにその通りだが、壊滅的被害を防ぐための方法を具体的に考えるためには、一例としてS35.8の被害シミュレーションを取り上げ、想定される被害額と必要な工事費のバランスを考える必要がある。（委員）
- ・ 自然環境の保護は流域全体で考えなければならない。ダムは局地的な環境破壊をもたらすが、破堤回避のために全川の堤防を強化しつづける河川改修も長期間にわたって環境悪化を招く。ダムによってこれらが回避できるのであれば、結果的にはダムのほうが安く済むのかもしれない。どちらにせよ、判断を下すためには具体的な工事の全容を知る必要がある。（委員）
- ・ ダムや堤防の強化以外にも、ライフスタイルの変更やリスクマネジメントといったソフト面での対策を河川整備計画に盛り込んでいくということが、流域委員会の出発点だ。ダムによって、今ある自然は破壊するべきではない。（委員）
- ・ このシミュレーションでは想定されていない内水被害も想定すべき。また破堤しにくいすごい堤防をつくった場合には、工事中だけでなく連続性の分断など工事後の環境への影響も考えるべき。（委員）
- ・ 流域委員会の中間とりまとめには「下流に負荷を及ぼすような工事はしない」とあるが、銀橋狭窄部の掘削、川西池田地区の堤防整備など破堤回避工事が下流に負荷を及ぼすのではないか。（委員）
上流で堤防を高くすれば、下流の流量が増え負荷を与える。だからといって、上流の浸水常襲地帯を放っておくわけにもいかない。（河川管理者）

破堤・越水した箇所では遊水地の機能を発揮させながら、洪水や浸水のスピードを軽減させるような流域全体を視野に入れた仕組みが必要だろう。(委員)

- ・シミュレーションの前提には様々なケースが想定されるため、部会長代理がシナリオを検討した上で次回河川管理者に結果を再度出して頂くこととする。

一般傍聴者からの意見聴取

- ・余野川ダムについては、個別に取り上げて、早く議論して頂きたい。万が一、余野川ダムについて、流域委員会の意見書で触れられなかった場合、どう取り扱われるのか。(一般傍聴者)

まず、余野川ダム事業について河川整備計画原案に、書かなかった場合、書いた場合の2通りがある。

河川管理者が河川整備計画原案に余野川ダムについて書かなかった場合で、その後の議論を通して作成される河川整備計画原案に対する流域委員会の意見書にも触れられなければ、余野川ダムは河川整備計画に記載されないことになるので、ダム事業は行わないことになる。

河川管理者が河川整備計画原案に余野川ダムについて書いた場合で、その後の議論を通して作成される整備計画原案に対する流域委員会の意見書にも触れられなければ、ダム建設が認められたことになり、ダム事業は行いが、河川整備計画原案に対する流域委員会の意見書に「建設するべきではない」という意見があれば、その意見を最大限尊重して検討する。(河川管理者)

以上

議事内容の詳細については、「議事録」をご覧ください。最新の結果概要および議事録はホームページに掲載しております。